

WOOD LETTER

Ψ moku推し Ψ

令和7年10月vol.57

森林環境譲与税 ご担当者の皆様へ

平素より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年は長く続いた猛暑日もやっと終わり「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり徐々に気温が下がり過ごしやすい季節となりました。秋の風が心地よく、木々が次第に色づき始めるこの季節、山歩きやハイキングが楽しみな時期です。一方で、予報によると12月は平年より寒くなる見込みで、秋の季節を楽しむ期間が短くなっているのを感じます。日々の気温の寒暖差が大きくなっていますので、皆さん体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

ということで今月も“Wood Letter Ψmoku推しΨ”vol.57をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係部署へのご共有にもご協力をお願いします。

：森づくり推進担当一同：



ハーベスタとフォワーダ

（1）令和7年度第2回「自治体職員 多摩産材流通現場等見学会」

10月10日に第1回見学会を開催し、20名の皆様にご参加いただきました。ご好評をいただき、誠にありがとうございました。ご参加いただきました皆様には御礼申し上げます。

さて、現在、第2回見学会の参加募集を開始しております。今回は東京の森林を実際に歩いて体感していただく内容となっており、**11月14日（金）**に開催します。募集定員は先着20名、申込締切は10月30日（木）までとなっております。本見学会は東京の森林・林業について理解を深めていただき、多摩地域の森林整備や多摩産材活用の契機とすることを目的としております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

お申し込みは、下記のメールアドレス宛てに申込書を添付してご送付ください。

申込先メールアドレス：S0000488@section.metro.tokyo.jp

第2回（11月14日金曜日）

9時30分（JR青梅線 河辺駅 集合）～16時30分（JR青梅線 河辺駅 解散）

<見学予定場所>

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| ①青梅市伐採現場 | （伐採現場見学） |
| ② <small>小河内ダム 緑と水のふれあい館</small> | （昼食、施設見学） |
| ③ <small>登計トレイル</small> | （香りの道散策） |
| ④東京都農林水産振興財団 青梅庁舎 | （花粉の少ないスギ・ヒノキ 採取園見学） |
| ⑤ <small>多摩産材情報センター</small> | （施設見学） |

②、⑤はタイトルをCtrlキーを押しながらクリックしていただくとホームページが表示されます

昨年の見学会の様子



伐採現場



MOKKIの森



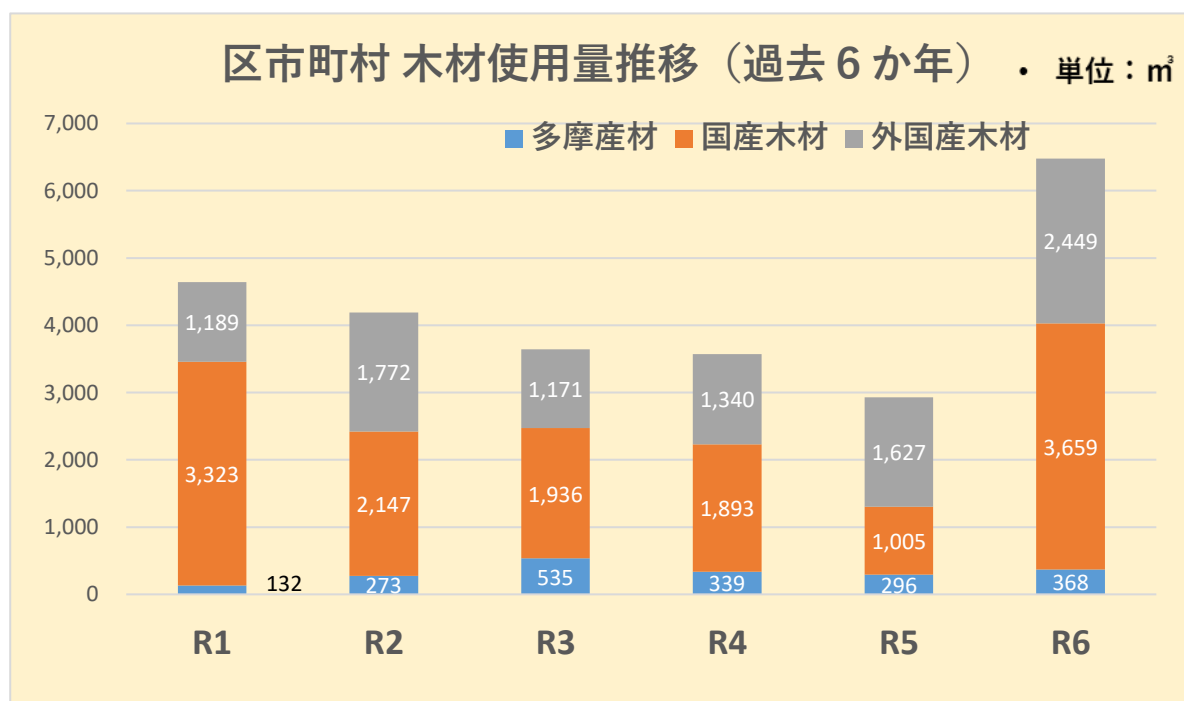
檜原森のおもちゃ美術館

(2) 令和6年度 区市町村 木材使用実績 調査結果

- 都では、東京都建設リサイクルガイドライン（第9章第2の4(2)）及び東京都公共建築物等における多摩産材等利用推進方針及び同方針の運用等に基づき、都内自治体の木材使用について、毎年調査をしています。今年度も本調査にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様からいただいた調査結果をご紹介します。

単位：m³

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
多摩産材	132	273	535	339	296	368
国産木材	3,323	2,147	1,936	1,893	1,005	3,659
外国産木材	1,189	1,772	1,171	1,340	1,627	2,449
総数	4,644	4,192	3,642	3,572	2,927	6,477
前年比		-10%	-13%	-2%	-18%	121%



令和6年度における区市町村の木材使用量は6,477m³となり、前年比121%と大きく増加しました。特に国産木材の使用量は前年の約3.6倍に増え、過去6年間で最多となっています。

また、外国産木材も前年の1,627m³から2,449m³へと約50%増加し、こちらも過去6年間で最も多い使用量となりました。

一方、多摩産材の使用量は前年の296m³から368m³へとわずかな増加にとどまり、国産・外国産木材の伸びと比べると限定的です。今後は多摩産材のさらなる利用促進をお願いします。

今回の調査では、都内62自治体のうち48自治体で木材使用実績があり、そのうち森林環境譲与税を充当した自治体は20(前年は19)で全体の42%を占めました。木材の利用に森林環境譲与税を活用することは法の目的にかなうもので、今後さらに多くの自治体での利用が期待されます。

今回の調査にご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。

(3) 多摩産材利用促進プロジェクト 令和6年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業の令和6年度活用事例をご紹介します。
多摩産材と触れ合う場を創出し、更なる利用拡大を図るため区市町村によるモデル的な公共施設整備
に対して支援するこの事業は、令和6年度は16区市町村で23の事業に対して実施しました。
(令和7年度は17区市町村で20の事業を予定しています。)今回は、品川区の木製遊具や横断抑止柵
に多摩産材利用促進プロジェクトを活用した事例をご紹介します。

品川区

木製遊具（立会川児童遊園）



特別区道横断抑止柵



(4) MOCTION 企画展示

木材の大消費地である東京でのさらなる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」では全国各地の木材製品の展示が行われています。

7月3日～7月15日 大阪府



7月17日～7月29日 徳島県



7月31日～8月11日 青森県



8月16日～8月26日 木のおもちゃ展



9/25～10/7は福島県、10/9～10/21は茨城県の企画展示となります。ご来場をお待ちしています！

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと）

“落葉樹が紅葉するのはなぜ？”

日本国内に生育する樹木の種類は、およそ1200種と推定されています。これらは、針葉樹と広葉樹、落葉樹と常緑樹、高木と低木などに分けられます。このうち、落葉樹と常緑樹は、葉が枝についている期間に注目した分け方です。秋になると赤く染まったモミジ類や黄色いイチョウなど、紅葉する樹木が落葉樹になります。樹木は光合成でエネルギーを作り出すため、葉から気体や水分の吸収と排出を行います。しかし、日照時間が短い冬は光合成の効率が落ちるため、寒冷な地域では厳しい冬を迎える前に栄養を葉から幹に移動させてから落葉し、葉を維持するエネルギーを節約します。この時、光合成をおこなうための緑色の色素(クロロフィル)が分解され、葉が赤や黄色に変わります。私たちの目に美しく映る紅葉は、樹木が厳しい冬を乗り越えるための準備を完了させた合図とも言えます。

「WOOD LETTER Moku推し（ウッドレター モクオシ）令和7年10月vol.57」

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一庁舎21階中央

東京都産業労働局農林水産部森林課 森づくり推進担当

TEL03(5000)7198(直通) 担当: 秋葉、伊藤、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問合せください。

TokyoTokyo

Tokyo GREEN Biz

Y-000815